

# 素顔 '89

(5)

## 女性研究者の旗手 J. Simpson

今回は、米国における女性の Ph. D. 第一号で、現在は、TRMM の推進にまい進する一方、米国気象学会の会長として活躍している、Joane Simpson を訪ねてみました。

問：まずあなたの経歴を聞かせて下さい。

——まず、シカゴ大学に入りました。当初は、物理には興味がなく、数学や、生物学に興味がありました。しかしながら、大学の教養の時に、Fermi などの有名な物理学者や天文学者の授業をとって、物理学の面白さに目覚めました。同時に、小型飛行機の操縦に興味がありましたので、気象学のコースをとりました。その後、C.G. Rossby に会いました。彼は私に9か月の航空気象のコースをとることを勧め、私もとることに決めました。そのうちに、面白くなって、graduate school に行こうと思うようになりました。そうしたら、Rossby は、「もう戦争が終わり、多くの男が帰って来るので、女性の働く場所はないよ。早く結婚して、子供を育てた方が良い」と云っていました。私は、何らの assistance も得ることが出来ませんでした。でも、私は、どうしても大学院へゆきたいと思いました。その時、Illinois Institute of technology というところで、物理の教師の職があり、それに応募して、物理学を教えながら、シカゴ大学の大学院にかよいました。

1947年に Riehl が熱帯の観測から帰って来て tropical meteorology の授業を始めました。その時は、初めての tropical convection の観測で、従来の想像に較べて、雲の中が、湿潤断熱より乾いているという発見に、皆が興奮していました。私は、すぐに、これこそ、私の進む途だと思いました。

1951年に Woods Hole に移りました。そして、1959年に、学位を取りました。最初の女性の Ph.D でした。

その後、UCLA、そして、Miami へ移り、主として、人工降雨の実験・観測に従事しました。その頃に、雲の

一次元モデルを走らせ、この model を test するのに、観測を用いたりしていました。

問：その頃に、飛行機観測をしていたのは、Miami だけでしたか？

——他にもありました。しかし、私が、Woods Hole にいた時には、記録が pen recorder でしたので、10分間の雲の観測のデータを整理するのに2年間もかかっていました。Miami では、データが、即座に、Punch Card で出て来るようになっており、感心しました。

その後、Univ. of Virginia で新しく学際的な環境科学の学部を作ることになり、一人好きな助教授を連れて来てよい、という好条件でさそわれたので、移りました。1979年に、D. Atlas が、Goddard で、大気の研究部門を開くことになり、severe storm 関係の研究者を捜しているというので、大学を一年間休んで、Goddard へ行きました。そこでの facility は、目をみはるものがありました。衛星の写真と観測データは、すぐに重ねられるし、GATE のあらゆるデータを plot するのに3年間もかかったことを考えると、computer のもたらした成功は、ものすごいものです。

もう一年間休暇を延長して、遂に、大学に戻らなければならなくなりました。当時は、子供が大学にかよっており、大学の教授の方が給料が高いので、大分悩みましたが、お金より、好きな事をする方が幸せである、と考えて、GSFC を選びました。この決断は正しかったと、今でも満足しています。

問：今、何が重要だと思っていますか

——地球上での雨量の観測、特に、海洋上の雨量の観測が、非常に重要だと思っています。それから、全地球上の環境の劣化が大問題です。我々科学者は、このような状態に対して、正しく発言してゆく責任があります。

問：女性の学生に対して云いたい事は？

——大学院に入り、学位を取った女性が家庭に引きこもったりすると怒りを感じます。Ph. D. を取ることは、社会に対し研究を通して貢献するという責任があることを意味します。もちろん、それは、容易ではありません。私の場合でも、私の給料の大半は、Baby Care で消えました。同様に男性の協力も必要です。女性だけが、外で働いて家事もするというのは問題です。男も変わらなければなりません。

問 若い人達に云いたい事は？

——Be prepared to work hard! 事実、仕事は非常 (p. 289 へつづく)

り、3か月平均することによって2つの季節の特徴が互いに打ち消しあった可能性もある。本文で対象とした海域の中ではNINO WEST が最も日本に近い海域なので、日本の天候に及ぼす影響は小さくないであろう。今後、平均する期間を変えたり対象とする海域を変えてみるなどの調査も必要である。

### 謝 辞

この研究を進めるにあたり、討論と助言をいただいた気象庁長期予報課の皆様へ厚く感謝いたします。

### 文 献

- Bjerknes, J., 1966: A Possible Response of the Atmospheric Hadley Circulation to Equatorial Anomalies of Ocean Temperature. *Tellus*, 18, 820-829.
- , 1969: Atmospheric Teleconnections from the Equatorial Pacific. *Mon. Wea. Rev.*, 97, 163-172.
- Kawamura, R., 1984: Relation Between Atmospheric Circulation and Dominant Sea Surface Temperature Anomaly Patterns in the North Pacific during the Northern Winter. *J. Met. Soc. Jpn.* 62, 910-916.
- Kito, A., 1988: Correlation Between the Surface Air temperature in Japan and the Global sea Surface Temperature. *J. Met. Soc. Japan*, 66,

- 967-986.
- Kurihara, K. and Kawahara, 1986: Extremes of Asian Weather during the Post ENSO Years of 1983/84-Severe Cold Winter and Hot Dry Summer-. *J. Met. Soc. Japan*, 64, 493-503.
- 栗原弘一, 1988: 長期予報における ENSO の役割, *海洋科学*, 20, 284-289.
- Fu, C.B., H.F. Diaz and J. O. Fletcher, 1986: Characteristics of the Response of Sea Surface Temperature in the Central Pacific Associated with Warm Episodes of the Southern Oscillation. *Mon. Wea. Rev.*, 114, 1716-1738.
- Horel, J. D. and J. M. Wallace, Planetary-scale Atmospheric Phenomena Associated with the Southern Oscillation. *Mon. Wea. Rev.*, 109, 813-829.
- Oort A.H. and Y-H. Pan, 1985: Diagnosis of Historical ENSO events. WMO Long-range Forecasting Research Report Series, No 6, 249-258.
- Rasmusson, E. M. and T. H. Carpenter, 1982, Variations in Tropical Sea Surface Temperature and Surface Wind Fields Associated with the Southern Oscillation/El Nino. *Mon. Wea. Rev.* 110, 354-384.
- 佐伯理郎, 1983: エル・ニーニョ, *グロースペクター*, No, 21-1, 1-12
- Wallace, J. M. and D. S. Gutzler, 1981: Teleconnections in the geopotential height during the Northern Hemisphere Winter. *Mon. Wea. Rev.*, 109, 784-812.

(p. 268 からつづく)

に楽しいものです。

女性研究者の第一号として、今も、研究の第一線で頑張っている J. Simpson には、全く頭が下がります。特に「私は、いつも重荷を背負っている。男が失敗したら、個人が悪く云われるだけだから良いが、もし、私

が、いいかげんなことをすると、私が悪いのではなく、女性全体に能力がないと判断されるので、常に、男性より優れていなければならない」と語っていた言葉が印象的でした。日本でも、戦後、第一線に登場した数多くの女性研究者の言葉と共通するのを感じます。果たして、現在の我々が変わり得たか否か、興味の残るところです。(佐 明正)